



泗水図書館 ☎ 0968 (38) 6866
 中央公民館図書室 ☎ 0968 (25) 1672
 七城公民館図書室 ☎ 0968 (25) 1580
 旭志公民館図書室 ☎ 0968 (37) 3111
 内線 303

閉館日・閉室日

泗水図書館 月曜日・月末・祝日
 中央公民館図書室 火曜日・第1日曜日・祝日
 七城公民館図書室 日曜日・祝日
 旭志公民館図書室 日曜日・祝日

菊池市図書館ホームページ <http://www.kikuchi-lib.jp/>

司書のつぶやき

壁の隙間で動かないアマガエル。夏の終わりに向かって歌う鈴虫。夏・秋・・・時の流れはどちらが早い？ コスモス



新着・お薦め図書

泗水図書館

修羅走る関ヶ原 山本兼一 著
 銀翼のイカロス 池井戸 潤 著
 ソボちゃん～いちばん好きな人のこと～ 有吉玉青 著
 徘徊タクシー 坂口恭平 著
 不安障害の子どもたち 近藤直司 編著
 「あの世」の準備、できていますか？ 矢作直樹・他 著
 紙コップのオリオン 市川朔久子 著
 ライオンのひみつ リトバ・ポウティラ 絵

中央公民館

パリのチョコレートレシピ帖 多田千香子 著
 百年のしごと 塩沢 楨 著
 装飾古墳の世界をさぐる 大塚初重 著
 ジョバンニの島 杉由成道 著
 立身いたしたく候 梶よう子 著
 戦国姫 月の巻 藤咲あゆな 作
 にげろ！ねござかな わたなべゆういち 作・絵

七城公民館図書室

明日の子供たち 有川 浩 著
 イベリコ豚を買いに 野地秩嘉 著
 ほしをもったひめ 八百板洋子 文
 3びきのお医者さん 杉山 亮 作

旭志公民館図書室

紫匂う 葉室 麟 著
 子育てハッピーアドバイス笑顔いっぱい食育の巻 松成容子 著
 ポテト・スープが大好きな猫 テリー・ファリッシュ 作
 とことんトマトン 高山栄子 作

大地のエイラ

ジーン・アウル著



岡崎輝子さん (高野瀬)

私が紹介したい本は、ジーン・アウル著「大地の子エイラ 始原への旅だち」です。紀元前3万年ごろのマンモスが生存していた原始時代、舞台は黒海に突き出ているクリミア半島の山腹の洞穴と、その周辺の草原です。主人公エイラは、幼児期災害に遭い両親とはぐれてしまい人種の異なる一族の間に育ちます。エイラが成長するにつれ一族間の間にいさかいが起き、一族から追い出されてしまいます。自然環境の厳しいなか、一人で生活していきます。その間に同人類と出会い、彼の一族が住んでいる所へ旅立ちます。旅先で出会う人々は、エイラの才能と能力に驚きと感動を受けました。ついに彼の一族の住んでいる所に着き、同種族の一族と生活が始まります。幼児期異種族の生活が規範になっているエイラは、とまどいながら原始時代を力強く生きていきます。

第5部からなっている長編小説です。原始時代にタイムスリップしてみてもはどうですか？ ドキドキするような冒険とロマンがいっぱいです。

耳より情報

☆「よんでビンゴ!(読書でビンゴ)」に挑戦しよう☆

いろいろな本を読んでビンゴのマスをうめよう。テーマに合う本を1冊借りたらスタンプを1個押します。たて、よこ、ななめの3列がそろったら、素敵なプレゼントがもらえます。ビンゴの用紙は泗水図書館、各公民館図書室にて配布します。ビンゴをしながら楽しく読書をしてみませんか？

とき 10月11日(土)～11月15日(土)

ところ 泗水図書館、中央公民館図書室、七城公民館図書室、旭志公民館図書室

対象者 小学生まで

☆利用者マナーを見直しましょう☆

世の中にはいろいろなマナーがあります。もちろん、図書館(室)を利用するときのマナーもあります。マナーを守ることは、少しも難しいことではありません。一人一人がほんの少し気をつけることで、みんなが気持ち良く利用することができます。

これを機会にもう一度、自分のマナーを見直ししてみましょう！



万句の里俳句会 8月例会

闇揺られて山鹿灯笼踊り出す 松永 久子
 御社に静もる灯笼灯のゆれ近し 田中ひさ子
 千人の踊り浴衣の女文字 光本とよいち
 遠き日の竹籠なつかし新豆腐 小山 照子
 大阿蘇野焼もろこしにかぶりつく 林 まつ子

せせらぎ俳句会 8月例会

姉妹校ありき広島原爆忌 藤本 邦治
 落蟬の空恋う如く仰向けり 五丁 義昭
 思春期の心迷わず終戦日 寺本 和子
 母だけにわかる片言サクランボ 服部 静子
 敗者より涙のエール夏球児 藤本アツ子

旭志文芸教室俳句の会8月詠草

鶯の立つ峡田の畦やカンナ燃ゆ 芹川のり子
 水草の花覗き見る流れかな 中尾ヨシコ

「ふるさと」の歌で始まる夏期講話

そう言えばそうだと思う梅雨の鬱 芹川 蓉子
 水谷 ミネ

肥後狂句桜会 8月例会

きれいさっぱり 元彼がつかはゴミ袋 高木 房恵
 波に乗り 毎年貰うグランプリ 高倉 新米
 ゆるーっと 留守番の晩酌もええ 辻 弘喜
 七夕さん 単身赴任まだ続く 藤野 清子
 ああたばかりが 座薬て書いてあつ 光堀 善教
 でしょが

肥後狂句水笑会 8月例会

あせくって すかん野菜ははねくら 中島 五女
 あせくって いつの間にやら消えら 柏原 乗仏
 した よかですか 父ちゃん一寸借ります 吉岡 三水
 が 真正面 あまり見なすな皺づらば 平井 江彩
 あせくって ようよ見合いにこぎつ 小崎 海美
 けた

七城短歌会 8月詠草

鳴く蟬が今日から盃蘭盆娘と二人過 岩崎 照代
 ごせる外泊の吾急ぎ立つる

終戦の年に父果て六十九年無念に 緒方 正俊
 えて農を継ぎきし 緒方 正俊
 いづくなる園児らに混じり温泉の七 緒方 正俊
 夕飾りに吾もペン執る 緒方 正俊
 こぼれ種子芽吹きて植えしポーチュ 緒方 正俊
 ラカの花咲き真夏の庭を占拠す 下川 つぎ
 白百合の花の数輪咲きそろう清楚に 岩津 涼子
 惹かれ庭に下り立つ

「里」短歌会 8月詠草

雨降りと思へば急に日の照りて天候 安見 朱實
 異変の今年の夏は 安見 朱實
 楠古木に轟くごとき蟬時雨黙し聴き 山城 雅子
 入る診察待つ間を
 ペナン沖兄らの眠る軍艦「羽黒」引 林 淑子
 き揚げ許さぬ鉄屑だなんて
 手を振りてゲートに消える娘らは遠 江頭 桂子
 きかの日の成田のわたし
 会果てて手組のアーチで送らるる 松本 和子
 生徒らよ六十路も幸せであれ



菊池短歌会 9月詠草

狭庭なる空蟬ひとつ拾ひたり全き空 怒留湯健蓉
 の羨しからずや
 はじめてを通所のわれの肩に触るる 村上さき江
 花房重し百日紅よ
 ひとしきり鳴きてくれたる法師蟬つ ましく生きし今日は母の忌 山下 菊代

雨降りて忘れかけたる杉苔の清々と 山代 静子
 して緑を見する
 どしや降りに閉じこめられて車内には 安藤 則子
 は雨音だけの我が時の在り

